

校長室から

東京都立武蔵野北高等学校

校長 鶴飼敦之

「武蔵野北に夢をのせて」

『梅からのメッセージ』

3月に入り、朝晩の寒さはまだ厳しいものの、日中はずいぶんと温かくなってきました。

春の近いことを知らせる花の一つに梅があります。古歌で「花」といったら普通、桜か梅を指すのでしょうか。古くからこれらの花が私たちの身近な花だったのでしょう。昔から「花見」という言葉があるくらいですから、自分の庭等で楽しむことの他に広い樹園で大勢の人が一緒になって花を楽しむ習慣があったのかもしれない。



梅の話。梅の木の大きさは梅の実の大きさにある程度比例しているようです。大きな実がとれる「ぶんど」種の木は大きくなり、小梅といわれる「白加賀」種の木は大きくなりません。また、小梅は植えてすぐに実が付くのに大梅は実が付くまでに時間がかかります。

桜は枝を切らないように、一方、梅の枝はどんどん切れといわれます。新たに伸びる梅の枝には花が咲かず、実もなりません。この枝のことを「徒長枝」と言いますが、徒に長いとは、なんだか可哀そうなネーミングですね。一年後には実を付けるのですが、初めの年は準備期間ということのようです。

春に校長室にいただいた胡蝶蘭を、花が咲き終わった後に小さなポットへと移植しました。せっかく頂いたので、再び咲くことを願って適度に水や肥料をやり、屋内に取り込んで春を待っていましたが、結果は大失敗。ほとんど葉を枯らしてしまいました。温度管理ができていなかったようです。樹木の性質をしっかりと研究することなく、素人の思いつきですることがいかにしつぺ返しを受けることか…。そのものの性質を生かすためには、待つやったり、一見無駄と思えるような場合でも経験させてやったり、ここぞというときには必要な力を貸してやる必要があります。さらに、そのもの自体がもっている、伸びようとする力を信じてやるのがいかに大切か、教えてください。自分の思惑だけでやることから、信頼も共感も生まれません。人間の場合も同じ事が言えそうです。

さて、昨日、今日の二日間、合格発表が行われました。新たにムサキタの一員となる皆さんを迎えることができ、大変嬉しく思います。朝から生徒昇降口で何人かの先生方と一緒に受検生を迎えました。受検生にとっては新型コロナウイルスの感染症にも注意しながらの受検だったことでしょう。本当に春がやってきましたね。おめでとう！！

でも、スタートはこれからです。ムサキタでやりたいことを目指して取り組むよう様々な準備をしてください。準備期間を有効に使って過ごしてください。

